

《令和7年度 第23回 社会貢献大賞受賞団体紹介》

社会貢献大賞 特定非営利活動法人 森は海の恋人(唐桑)

「森は海の恋人」は、牡蠣漁師・故畠山重篤氏らが1989年に設立した団体で、「森・川・海は一体」という考えのもと、海の豊かさを守るため上流の森づくりに取り組んでいる。岩手県一関市などで35年以上植樹活動を継続し、漁業者が山に木を植える先駆的な実践として広く注目されてきた。震災後は塩性湿地の保全や生態系調査、防潮堤に頼らない自然共生型の地域づくりを推進し、科学的知見と実践活動を融合させた環境再生と次世代教育に取り組んでいる。

地域発信・交流貢献部門賞 宝田 和夫氏(気仙沼)

宝田和夫氏は、気仙沼市において長年観光業に従事し、宿泊施設勤務や観光団体活動を通じて地域振興に尽力してきた。日本旅館協会等に所属し、全国へ向けて気仙沼の魅力発信を行うとともに、観光コンベンション協会副会長として観光ガイドや来訪者対応に従事した。またNHKラジオ「マイあさ!」に約20年間出演し、地域情報の発信を継続。東日本大震災後は語り部として震災伝承活動にも取り組み、地域の記憶継承と復興支援に貢献している。

地域食文化創造部門賞 紅梅 揚げパン(気仙沼)

株式会社紅梅は昭和27年創業の老舗和菓子店で、地域に根ざした菓子づくりを続けている。代表商品「揚げパン」は自家製こしあんを用いた製法で生まれ、1日800個以上を販売する気仙沼のソウルフードとして定着し、漁業者や市民の日常を支えている。東日本大震災後も事業を継続し、変わらぬ味と安心を提供し続けてきた。近年は食品ロス活用や商品開発にも取り組み、ふるさと納税やメディア発信を通じて地域の魅力向上にも取り組み、地域に根ざした活動を継続している。

地域活性化・まちづくり推進部門賞 大谷まちづくり協議会(本吉)

令和6年8月に設立され、「住みたい・住んでよかったと思える元気なまちづくり」を理念に掲げる地域組織である。大谷里海づくり検討委員会や大谷みらいトークを基盤に、地域課題の把握と解決、にぎわい創出、防災、自然環境保全などに取り組んでいる。キッチンカーフェスや大谷海岸花火まつりの開催、学校活動への協力、伝統文化の継承支援などを通じ、地域住民が主体となった持続可能なまちづくりを推進し、地域社会の発展に重要な役割を担っている。

防災教育・人材育成部門賞 南三陸町立歌津中学校(歌津)

東日本大震災を契機に防災教育に力を入れ、生徒全員が「少年防災クラブ」に所属。年1回、歌津地区全域を対象に予告なしで避難所運営訓練を実施し、対策本部の立ち上げから炊き出し、救護、消火、救命、瓦礫撤去などを生徒主体で行っている。消防署や地域団体と連携した実践的訓練を通じ、自ら考え行動できる防災力の育成を目指している。地域住民も参加する取り組みとして高く評価され、各種表彰も受けている。

農山村振興部門賞 入谷の里山活性化協議会(志津川)

入谷地区の里山資源を活用し、農山村の活性化と交流促進を目的に2021年に設立された協議会である。廃校を活用した宿泊・体験拠点の整備をはじめ、農業や木工、郷土料理などの体験プログラムを展開し、地域の魅力を生かした受入体制を構築している。「しおかぜ葡萄」のブランド化や直売所運営による地産地消の推進に加え、世代間交流や大学連携、文化活動の実施を通じて関係人口の拡大と地域再生を進め、持続可能な農山村づくりに取り組んでいる。